

# 治験薬製造施設を開設

アブクルクスとメディリッジ

うるまで来月稼働



治験薬GMP準拠製造施設の設備について説明する、アブクルクスバイオファクトリーの甲田克志社長（右）＝14日、うるまで市・沖縄ライフサイエンス研究センター内

【うるまで】検査薬開発に必要抗体生産などを手掛ける

アブクルクスバイオファクトリー（うるまで市、甲田克志社

長）と、バイオ医薬品製造などに取り組むメディリッジ（東京都、眞鍋幸子社長）は

共同で、アブクルクスが入居するうるまで市州崎の沖縄ライフサイエンス研究センター内に治験薬GMPに準拠した新規治験薬製造施設を開設する。2月10日に稼働する予定。同様の施設は国内でも少なく、県内では2カ所目。

GMPとは法令で定められた医薬品などの製造、品質管理の基準で、国内では対応する施設が少なくニーズが高まっているという。

沖縄は、メディリッジと提携する医薬品の安全性試験実施会社・TFBS社がある台湾と地理的に近いことや県の

助成が手厚いこと、同研究センターの設備の充実などから施設の開設が決まった。

今後はメディリッジが窓口となり研究機関や製薬会社から委託を受け、がんや白血病などの遺伝子治療に使う治験薬の原材料をアブクルクスが施設で製造、TFBS社が安全性試験をする。

国内だけでなくアジアを中心に海外の販路開拓も視野に入れる。

関係者を招いた見学会が14日、同センター内であり、甲田社長は「立派な施設ができたので、よい製品を患者に届けたい。人手も必要になるので将来は雇用も増やしたい」と意気込んだ。